

2022年度 防災教育 交流フォーラム



Disaster Management Education Networking Forum

阪神・淡路大震災以降の防災教育を振り返り、次の方向性を考える
～2004年に始まった3つの防災教育の試みの20年～

防災教育チャレンジプランは、
2022年度防災交流フォーラムの
一部をぼうさいこくたい2022と
連携して開催します。

ぼうさいこくたいとは？

ご家族連れから専門家まで
幅広い方が防災を学べる
日本最大級の防災イベントです。

2023年度
防災教育チャレンジプラン
募集中
11月18日(金) 締切

中間報告会:2022年10月15日14:00～16:30

オンライン開催

防災教育交流会:2022年10月22日12:30～14:00

神戸市内会場+ライブ配信 (YouTube)

10月15日(土)は、2022年度防災教育チャレンジプラン実践団体の活動中間発表、
10月22日(土)は、防災教育各分野の代表者による基調報告と意見交換会を行います。

www.bosai-study.net

主催: 防災教育チャレンジプラン実行委員会、内閣府(防災担当)、国立研究開発法人防災科学技術研究所

共催: 一般社団法人防災教育普及協会

後援: 消防庁、文部科学省、国土交通省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本赤十字社、全国都道府県教育委員会連合会、日本PTA全国協議会、防災未来賞ぼうさい甲子園事務局



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。



2022 年度防災教育交流フォーラム



阪神・淡路大震災以降の防災教育を振り返り、次の方向性を考える
～2004 年に始まった 3 つの防災教育の試みの 20 年～

日時	プログラム	発表団体(敬称略)
<p>中間報告会</p> <p>10月15日(土) 14:00-16:30</p> <p>※防災教育チャレンジプラン 独自開催</p>	<p>実践団体発表 表についての意見 交換</p>	<p>【2022年度防災教育チャレンジプラン実践団体】全12団体</p> <p>愛知県立ひいらぎ特別支援学校 静岡県立駿河総合高等学校 江戸川区立一之江小学校 2011 team 釜石小ぼうさい 見てもよう!常総市の会 犬山市立楽田小学校 減災 Days 東京都立調布特別支援学校 愛知工業大学名電高等学校 愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部 信州大学観光防災マップ活用グループ 文京 de BOSAI</p>

日時	プログラム	講演講師・発表者(敬称略)
<p>防災教育交流会</p> <p>10月22日(土) 12:30-14:00</p> <p>※ぼうさいこくたい 2022 と連携</p>		<p><テーマ> 阪神・淡路大震災以降の防災教育を振り返り、次の方向性を考える ～2004 年に始まった 3 つの防災教育の試みの 20 年～</p>
	<p>基調報告</p>	<p>NPO 法人さくらネット 代表理事 石井 布紀子 日本損害保険協会 業務企画部 防災・安全グループ 係長 杓子尾 駿 兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授 木村 玲欧</p>
	<p>パネル ディスカッション</p>	<p>コーディネーター: 諏訪 清二 兵庫県立大学 特任教授/防災教育学会 会長</p> <p>パネリスト: 石井 布紀子 NPO 法人さくらネット 代表理事 杓子尾 駿 日本損害保険協会 業務企画部 防災・安全グループ 係長 佐藤 翔輔 東北大学災害科学国際研究所 准教授 池田 真幸 防災科学技術研究所 特別技術員 木村 玲欧 兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授 佐藤 健 東北大学災害科学国際研究所 防災教育実践学分野 教授 船木 伸江 神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科 教授</p>

■ 発表・講演等の記録について

- ・防災教育交流フォーラムの記録のため、事務局にて音声の録音、ビデオ撮影、写真撮影を行います。また、これら資料はデータベース化し、防災教育チャレンジプラン関連の媒体（ホームページ、パンフレット、報告書等）への掲載、または関係者への提供を行うことがありますので、ご了承ください。



☆☆☆☆ 中間報告会 ☆☆☆☆

防災教育チャレンジプラン独自開催

10月15日(土)

14:00 開会		
14:00 開会挨拶		
内閣府政策統括官(防災担当)付 企画官(普及啓発・連携担当) 防災教育チャレンジプラン実行委員長		前川 紘一郎 林 春男
14:10 今年度の趣旨・概要の説明		
防災教育チャレンジプラン実行委員		中川 和之
14:25 ブレイクアウトルーム(実践団体発表についての意見交換)		
ブレイクアウトルーム方式で実施 防災教育チャレンジプラン実践団体(12団体)と防災教育チャレンジプラン実行委員、一般参加者が各ルーム内で意見交換を行います		
ルーム A	ルーム B	ルーム C
進行役:南島委員 リポーター役:澤野委員 江戸川区立一之江小学校 犬山市立楽田小学校 愛知県立ひいらぎ特別支援学校 東京都立調布特別支援学校	進行役:酒井委員 リポーター役:栗田委員 静岡県立駿河総合高等学校 愛知工業大学名電高等学校 愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部 信州大学観光防災マップ活用グループ	進行役:鍵屋委員 リポーター役:舟生委員 見てみよう! 常総市の会 減災 Days 2011 team 釜石小ぼうさい 文京 de BOSAI
15:55 クロージングセッション(議論の共有・まとめ)		
防災教育チャレンジプラン実行委員		中川 和之(進行役) 澤野 次郎 栗田 暢之 舟生 岳夫
16:20 全体講評		
防災教育チャレンジプラン実行委員長		林 春男
16:25 閉会挨拶		
内閣府政策統括官(防災担当)付 企画官(普及啓発・連携担当)		前川 紘一郎
16:30 閉会		

実践団体の紹介

愛知県立ひいらぎ特別支援学校

プラン名 防災学習で学ぶ「命の守り方」 ～自分で・学校で・地域で～

応募部門 小学校の部～高等学校の部

所在地 愛知県半田市

一目的・特徴等

次の三つの柱で学校全体の防災・減災力を高めていく。

- 1 「自分で守る」…全校の児童生徒が主体となり、災害に備えた意識を高める活動をするとともに、日頃から安全に過ごすことのできる方法について考える。
- 2 「学校で守る」…教職員やPTAが主体となり、研修や体験をとおして防災マニュアルを見直し、学校でできる対策について考える。
- 3 「地域で守る」…近隣の学校や市役所をはじめ、地域の人とつながり、災害時に支えあう関係作りを行う。

一団体紹介

愛知県知多半島を校区とする肢体不自由児のための特別支援学校である。全校生徒は小学部、中学部、高等部合わせて約80名。学校生活において医療的なケアが必要な児童生徒や日常的に介助を要する児童生徒が在籍している。開校以来、約20年間、幸いなことに大きな災害を経験していないが、所在地域は「南海トラフ大地震」の対象地域に含まれている。重度の障害がある児童生徒が「安心・安全」に地域社会で暮らしていけるように、「防災学習」のより一層の充実をはかっていく。



静岡県立駿河総合高等学校

プラン名 地域防災コミュニティプロジェクト学習 ～持続可能にむけて～

応募部門 高等学校の部

所在地 静岡県静岡市駿河区

一目的・特徴等

静岡県は、大きな地震が発生すると言われており、また学校近隣では水災害や土砂災害が起こっている。そんな中、高校生が地域にできることを主体的に行うことで、地域に貢献することを目的とする。

実際に防災・減災活動をするために、専門的な知識を大学教授や行政職員、専門家より学び、いざという時に行動できる人材育成を目指す。同時に、高校生が地域住民やこども園、外国人、障がい者施設の方々と交流を深めることで、地域コミュニティの輪を広げることも狙いとしている。

一団体紹介

静岡県駿河湾に面した駿河区唯一の公立高校で、2013年に静岡県立静岡南高等学校と静岡市立商業高等学校が合併し、総合学科高校として現在の静岡県立駿河総合高等学校となる。校内には静岡県立静岡北特別支援学校南の丘分校があり、共生教育を行っている。人文社会、自然科学、ビジネス総合、デザイン、生活文化、ものづくり総合の6系列があり、多種多様な学びができる。総合的な探究の時間では、探究サイクルを自らまわし、「これからの社会で必要となる力」を3年間通じて身につけるカリキュラム構成としている。





実践団体の紹介

江戸川区立一之江小学校

プラン名

備えよう、まさかのために！ 作ろう、一之江防災プラン！

応募部門

小学校の部

所在地

東京都江戸川区



一目的・特徴等

1. 「まさか」の状況にすぐに対応できる具体的な「指針」（ペーパーベース）と、「行動」（活動ベース）をセットにした「一之江防災プラン」を構築する。
2. 荒川及び中川に挟まれた立地から、台風や大雨、津波等による河川の氾濫が想定されるため、学校（児童・教員）と保護者・地域・行政が連携して防災意識を高め、災害時に備えるとともに、命の確保が安全にできるよう見通しをもたせる。

一団体紹介

本校は荒川と中川に挟まれた0メートル地帯に位置し、川の氾濫が想定される地域です。防災チャレンジプランの取組を通して、子供たちが自らの命を守るための防災意識を高めるとともに、学校と地域が一体となって不測の事態に対応できる実践力を高めるために応募をしました。新型コロナの影響で止まってしまっていた、学校、行政、地域の連携を深めるための取組を協働して進めていきたいと思ひます。



2011team 釜石小ぼうさい

プラン名

災害伝承 2011 team 釜石小の軌跡 『このたねとぼそ』

応募部門

小学生の部
大学・一般の部

所在地

岩手県盛岡市



一目的・特徴等

東日本大震災発災時に、下校後で学校管理下外にいた釜石小学校の子ども達は一人一人の判断で全員が大津波から自分の命を守りぬきました。

本プランでは、大津波を生きぬき、大人になったあの時の子ども達の手記、原点である釜石小学校の防災教育を本『このたねとぼそ』にまとめます。

さらに、あの時の子ども達（現大人）から現在の子ども達にフィールドワークとパネルディスカッションを行います。

防災の「たね」を現在の子ども達に、全国に、未来へ飛ばし、新たな防災意識の向上を目指します。

一団体紹介

『2011team 釜石小ぼうさい』は、東日本大震災前から釜石小学校防災教育に取り組んだ教員有志と、大津波を生きぬいた子ども（現大人）有志です。2020年度、2021年度には、北九州市防災・減災教育推進シンポジウムに参加し、防災の取組を伝えてきました。

震災から11年の月日を経て、当時の教職員は異動先の各地で復興教育に取り組んでいます。

そしてあの時の子ども達は今、自分の夢に向かっていきいき生きています。当時のことを伝えられる素敵な大人に成長しました。震災伝承と、地域の防災文化の礎となっていることを実感しています。



実践団体の紹介

見てみようよ！常総市の会

プラン名 オープンストリートマップでつくる水害6年目の常総市地図

応募部門 高等学校の部
大学・一般の部

所在地 茨城県常総市



一目的・特徴等

平成27年関東東北豪雨災害から6年となる常総市において、水害記憶の次世代継承のため、web上の無料プラットフォーム「オープンストリートマップ」を活用した「発見街歩き地図作りイベント」とその後のweb上マップへの随時書き込み可能化により、取組参加者増大と継続を、観光振興と抱き合わせたかたちで推進する。



一団体紹介

当会は、平成27年関東東北豪雨で鬼怒川堤防が破堤、市内中心部が大洪水に見舞われた茨城県常総市において、水害の記憶を消し去る復興ではなく、水害記憶を継承しながらの復興を望む市民活動団体として設立。市内の各地（許可を得た場所）に当時の高水位の高さを示すステッカーを貼る参加型スタディツアー「ステッカーツアー」を実施し、過去に当該チャレンジプランからも2箇年度支援いただいた。支援が終了した後も、中心地・水海道や2本の一級河川（鬼怒川・小貝川）を舞台にしたガイドウォークやカヌー体験を加えた水害継承イベントを実施してきている。



犬山市立楽田小学校

プラン名 Let's プロテクト 犬山 =災害に強い街づくり=

応募部門 小学校高学年の部

所在地 愛知県犬山市



一目的・特徴等

本校で防災教育の実践が始まって3年目となる。犬山市が発行するハザードマップで示されている危険地域が校区内にいくつもあるが、以前は災害を身近に意識している児童は少なかった。だが、効果的に自然災害を学ぶために、教科横断的な学習展開ができるようにカリキュラムマネジメントを行ってきたことで、少しずつ防災に対する意識が芽生えてきたと感じている。本実践はこれまでの取り組みを活かして、「持続可能なカリキュラム」として本校に定着するための「システムの構築」を目的としている。



一団体紹介

本校は、児童数500人程の中規模校である。犬山市の南東部に位置するが、古墳時代より拓けた場所に位置する。地形的には木曾川の扇状地と東部の山地の縁にあり、それぞれの特徴が校区内に散見できる。東部の山には砂防ダムが各地にある。世界灌漑用水にも指定された、入鹿池も近くにある。その入鹿池には明治村が隣接する。大縣神社や青塚古墳、木津用水、楽田城、小牧城、犬山城と本当に多くの教育リソースが身近にあるのが本地区であり、このリソースを一つずつ活用できるようにしていくことは、自分たちのアイデンティティを確かめるうえでも、大切なミッションといえる。歴史や理科と関連させながら防災・減災について学ぶカリキュラムを、楽田で作っていききたいと思う。





実践団体の紹介

減災 Days

プラン名 幼児からスタートする切れ目ない防災教育

応募部門 保育園・幼稚園の部
～小学校の部

所在地 山形県山形市



一目的・特徴等

フィールドの山形県中山町は町内の殆どにハザードが想定される町です。中学生には防災を軸とした教科横断的な総合学習（避難所運営訓練等）が取り組まれています。今回のプランでは幼小においても発達段階に合わせた「切れ目ない防災教育」を作り出し、自分自身が社会の一員であるという視点に気づき、主体的に防災に取り組むキーパーソンになれる様、防災の知識・体験を活かし、自らの行動を導く為の「こころ」を育みます。

一団体紹介

防災・減災活動はいのちを守った先の未来の笑顔の為にあるということを信念に、防災・減災を手段に人づくり・まちづくりに関わる活動を行っています。防災に関する講座やWS、体験型イベントの他、SGDs の視点、男女共同参画の視点、社会福祉の視点を防災・減災と結び、地域や行政、市民を繋ぐ活動を通して、防災・減災を日常化し、より良い未来の為のコミュニティづくりを支援しています。



東京都立調布特別支援学校

プラン名 コロナ禍における持続的に発展可能な福祉避難所開設計画

応募部門 小学校の部～中学校の部

所在地 東京都調布市



一目的・特徴等

地域のニーズに応える速やかな福祉避難所開設の仕組みづくりを目指します。本校、行政、大学、地域住民が避難所開設という共通の目的で連携し、協議や訓練を重ねて災害時の実践的な対応力を磨き、「避難所開設マニュアル」を作成します。入口をリモートで開錠・施錠する仕組みの導入や、特別支援教育のノウハウを生かした空間の快適化など、コロナ禍の避難所開設の最適な仕組みを探ります。

一団体紹介

本校は知的障害のある児童・生徒のための学校で、小学部と中学部合わせて170名近くが学んでいます。調布駅に程近い場所にあり、「『地域』に生き、ともに伸びる学校」というスローガンを掲げ、共生社会の実現に向けて特別支援教育の充実を図っています。通学区域は調布市・三鷹市・狛江市で、多摩川や野川などの流れる緑豊かな環境にあります。地域との連携に力を入れており、調布市、近隣の小学校と大学、隣接するマンションとの間に、それぞれ防災協定を結んでいます。地域住民による支援組織もあり、行事や訓練などで協力を仰いでいます。



実践団体の紹介

愛知工業大学名電高等学校

プラン名

名電チャレンジ ～減らして防ぐ災害マニュアル～

応募部門

高等学校の部

所在地

愛知県名古屋市千種区



—目的・特徴等

1人でも多くの人に「防災に対する意識を高めてもらいたい」という願いを実現するため、3つの項目に分けて取り組んでいきます。

- ・避難訓練を活かした避難ルートの見直しと改善、校舎の安全性の検証
- ・ガラスを基調とした校舎であるため、災害発生時、ガラスの危険箇所を知らせることができる「危険箇所周知システム」の開発
- ・地域や大学生との交流を深め、避難訓練や広報の活動の活性化



—団体紹介

愛知工業大学名電高等学校は大正元年に創立し、令和4年に110周年を迎えます。現在の校舎は平成24年に建てられたもので、ガラスを多用した明るく近代的な校舎です。

しかし、災害時にはガラスによる被害の可能性が高いため、愛知工業大学の教授や本校舎を手がけた設計者の方々から災害の知識や建物の安全性を学び、検証しています。また、企業のサッシ会社と危険箇所周知システムの開発や、大学生、地域の方々と交流を深めながら、より防災力を高める対策を講じていく予定です。

多くの方々と協力していきながら、より良いものを作っていきます。

愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部

プラン名

教員養成大学の学生を育てる防災教育年間プログラムの開発
—町内防災運動会をとおした「地域発」の学び—

応募部門

大学・一般の部

所在地

愛知県刈谷市



—目的・特徴等

プランの目的は、地域の指定避難所である教員養成大学の学生が、町内防災運動会への参加をとおして、防災教育の担い手としての知識・技能を身につけ、地域住民との交流体験を深める支援を行うことです。従前の防災運動会の競技を見直し、新設の競技を学生と協働で開発・実践し、活動を防災教育の年間プログラムとして展開することで、地域住民・学生双方の防災意識の向上を目指します。実践3年目となる今年は、2年間中止となっている町内運動会の実現と、大学の授業単位としての位置づけをとおした活動の継続を目指します。

—団体紹介

井ヶ谷町内会は刈谷市内でも特に地域活動が盛んな自治会で、体育部は町内会の有志によって組織された約25名の団体です。町内の行事の中で体育部が中心となって運営する最も大きな行事が防災運動会で、1979年を第1回とする40年以上の歴史があります。町内の大学の学生とは今でこそ日常的な交流が少ないものの、以前は学生向けの下宿も多く、「学生を町内で見守る」という意識が地域で醸成されてきた経緯があります。町内に潜在的にある「教育の力」を活かし、学生生活の場であり防災を学ぶ場としての地域住民が、防災運動会の運営・実施をとおして、学生を「育てる」ことにチャレンジします。





実践団体の紹介

信州大学観光防災マップ活用グループ

プラン名 地域でつくる観光防災マップ

応募部門 高等学校の部～
大学・一般の部

所在地 長野県長野市



一目的・特徴等

防災の重要性は総じて社会全体に浸透していますが、今以上の向上を図るには日常生活に取り入れることが大切です。

本プランでは、これまで作成されてきた様々な観光マップをベースとして、地域住民と高校生が協働で調査した防災に関わる情報をプラスし、観光防災マップの作成を行います。作成したマップについては防災イベント等の運用に利用し、参加者や関係者の防災意識向上、新たな地域防災活動の取り組みの端緒の獲得を目指します。



一団体紹介

地域防災の普及を目指し、信州大学、伊那市役所、伊那市有線放送農業協同組合、上伊那広域消防本部の有志で立ち上げた団体です。設立前から地域防災に関わる活動に積極的に関わってきたメンバーが、伊那弥生ヶ丘高等学校、伊那北高等学校の総合学習に関わることになり、新たな地域防災の仕組みづくりのため活動を開始しました。

今後は様々な方の協力を得ながら目的の実現を目指していきます。また、本プランを通じて得た知見を地域の方にいかにわかりやすく伝えるか等課題もありますが、メンバー一同全力で取り組んでいきます。



文京 de BOSAI

プラン名 文京★こども防災スタンダードプロジェクト

応募部門 小学校低学年の部
高等学校の部～大学・一般の部

所在地 東京都文京区



一目的・特徴等

本プランでは、こどもたちが、自助の重要性と必要性を普及する担い手となるような枠組み「文京★こども防災スタンダード」を構築します。この狙いは、

- 1) こどもの自助力（生きのびる知恵）の獲得と向上。
- 2) こどもの自助力向上を通じた保護者（地域住民）の自助の芽生えと自助力の向上。
- 3) 地域住民の自助力、ならびに地域の耐力の獲得と強化（共助力の芽生え）。

です。地域のこどもたちの自助概念の涵養と、その保護者（地域住民）の防災意識の革新により地域の防災力向上を目指します。

一団体紹介

本プランには、多種多様な分野で活動する多彩な人材や団体が参画しています。文京区の町会の防災活動に長らく携わってきた町のリーダー、地区防災計画を立てたリーダー、ご近所の繋がり強化のための活動を推進する団体（ご近所 de BOSAI®）、行政との連携の下、災害時に備えてきているアマチュア無線連絡会の主要メンバー、文京区防災課、消防署、小学校PTA、最新の研究を考慮して災害リスクを説明してきている研究者など。

これらの連携を強化することに加え、本プランに賛同し参画していただける人材や団体募集を継続し、より多彩な団体への成長を目指しています！





防災教育交流会



阪神・淡路大震災以降の防災教育を振り返り、次の方向性を考える
～2004年に始まった3つの防災教育の試みの20年～

ぼうさいこくたい2022

10月22日(土)

12:30	開会	
12:30	開会挨拶	内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当) 村上 威夫
12:32	趣旨説明	兵庫県立大学 特任教授/防災教育学会 会長 諏訪 清二
12:35	基調報告	NPO 法人さくらネット 代表理事 石井 布紀子 日本損害保険協会 業務企画部 防災・安全グループ 係長 杓子尾 駿 兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授 木村 玲欧
13:05	パネルディスカッション	
	コーディネーター	： 諏訪 清二 兵庫県立大学 特任教授/防災教育学会 会長
	パネリスト	： 石井 布紀子 NPO 法人さくらネット 代表理事 杓子尾 駿 日本損害保険協会 業務企画部 防災・安全グループ 係長 佐藤 翔輔 東北大学災害科学国際研究所 准教授 池田 真幸 防災科学技術研究所 特別技術員 木村 玲欧 兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授 佐藤 健 東北大学災害科学国際研究所 防災教育実践学分野 教授 船木 伸江 神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科 教授
13:55	全体講評	兵庫県立大学 特任教授/防災教育学会 会長 諏訪 清二
14:00	閉会	



コーディネーターの紹介



諏訪 清二 (すわ せいじ)

兵庫県立大学 特任教授
防災教育学会 会長

一略歴

2002年、兵庫県立舞子高校環境防災科で防災教育に関わり始めた。現在はフリーで国内外の学校での防災教育、教職員対象の研修などを行っている。防災教育、災害ボランティア、災害体験の語り継ぎなどを研究・活動対象としている。若者が防災活動をできる場のプロデュースにも力を入れている。

パネリストの紹介



石井 布紀子 (いしい ふきこ)

NPO 法人さくらネット
代表理事

一略歴

NPO法人さくらネット代表理事。兵庫県生まれ。阪神淡路大震災にて被災、その後、災害ボランティア活動や防災教育の推進に携わる。2011年から、1.17未来賞 ぼうさい甲子園事務局、2008年内閣府特命担当大臣賞受賞

パネリストの紹介



杓子尾 駿 (しゃくしお しゅん)

日本損害保険協会 業務企画部
防災・安全グループ 係長

一略歴

2014年日本損害保険協会に入職。募集・研修サービス部を経て、2016年より現役職。損保業界のサステナビリティ推進に資する取組として、防災・減災事業および気候変動対応等に携わる。この他、日本災害情報学会 広報委員会委員、TEAM 防災ジャパン お世話係および月刊フェスク 編集委員会委員等を務める。



佐藤 翔輔 (さとう しょうすけ)

東北大学災害科学国際研究所
准教授

一略歴

2011年京都大学大学院情報学研究科博士後期課程修了。博士（情報学）。専門は災害伝承・災害情報。東北大学助教を経て、2017年11月より現職。令和3年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞等（実証研究と技術支援に基づく効果的な震災伝承に関する研究）



パネリストの紹介



池田 真幸 (いけだ まさき)

防災科学技術研究所
特別技術員

一略歴

2014年東北大学大学院理学研究科博士前期課程修了。修士（理学）。2016年4月より現職。研究テーマは災害地理情報、防災教育、等。2021年度地域安全学会論文奨励賞を受賞（全国で展開される防災教育教材の現状分析 ～学習指導要領との関係性を踏まえた今後の防災教育のあり方～）



木村 玲欧 (きむら れお)

兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科
教授

一略歴

1975年東京都生まれ、京都大学大学院修了。博士（情報学）。専門は防災心理学、防災教育学、社会調査法。内閣府・防災教育チャレンジプラン実行委員会委員、防災科学技術研究所・客員研究員。著書に『災害・防災の心理学ー教訓を未来につなぐ防災教育の最前線』『グループワークのトリセツ』（北樹出版）他。

パネリストの紹介



佐藤 健 (さとう たけし)

東北大学災害科学国際研究所 防災教育実践学分野
教授

一略歴

東北大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。博士（工学）。日本安全教育学会常任理事、日本自然災害学会評議員など。内閣府「防災教育チャレンジプラン実行委員会」委員、文部科学省「学校安全に係る専門性向上支援事業有識者会議」委員、宮城県「学校防災アドバイザー」、石巻市「学校防災推進会議」委員長など。



船木 伸江 (ふなき のぶえ)

神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科
教授

一略歴

2006年に神戸学院大学へ着任。学際教育機構 防災・社会貢献ユニット専任講師、人文学部、現代社会学部准教授を経て 2021年から現職。学校における防災教育の現状と課題 新たな防災教育ツールの開発、災害経験者の語り継ぎに関する研究に取り組んでいる。



防災教育チャレンジプランとは？

■ 防災教育チャレンジプランの目的

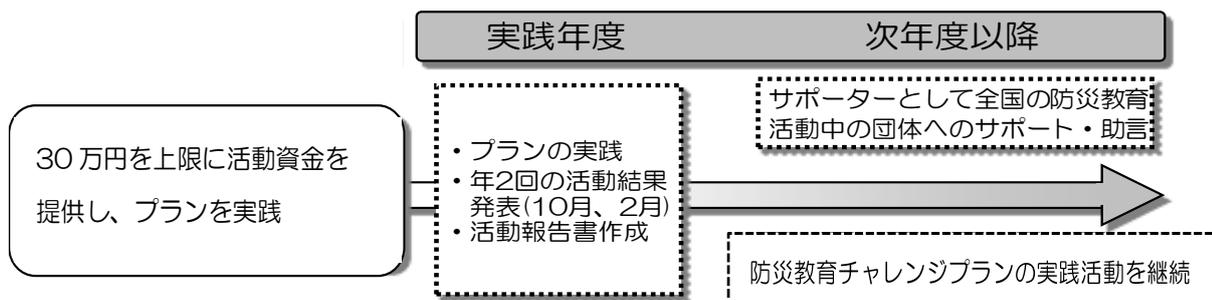
国内外で大規模な災害が起きている昨今、またいつ災害がやってくるかわかりません。防災教育チャレンジプランは、このような災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集し、「防災教育チャレンジプラン」として選出した上で、その実践への支援を行います。

1年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容を活動報告会を通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。



■ 防災教育チャレンジプラン実践団体の構成と実践スケジュール



実行委員の紹介

(委員長)

林 春男	国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長
池田 真幸	国立研究開発法人防災科学技術研究所 災害過程研究部門 特別技術員
市川 啓一	株式会社レスキューナウ危機管理研究所 代表取締役
井上 浩一	防災ネットワークプラン 代表
鍵屋 一	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授
金田 義行	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長・地域強靱化研究センター長・学長特別補佐・特任教授
木村 玲欧	兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授
国崎 信江	株式会社危機管理教育研究所 危機管理アドバイザー
栗田 暢之	認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事
酒井 慎一	東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 教授
佐藤 公治	南三陸町立歌津中学校 主幹教諭
佐藤 健	東北大学 災害科学国際研究所 防災実践推進部門防災教育実践学分野 教授
澤野 次郎	災害救援ボランティア推進委員会 委員長
諏訪 清二	防災学習アドバイザー・コラボレーター
田上 順一	特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク 事務局次長
中川 和之	株式会社時事通信社 解説委員
平田 直	東京大学 名誉教授
福和 伸夫	名古屋大学 名誉教授
船木 伸江	神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 教授
舟生 岳夫	セコム株式会社 I S 研究所リスクマネジメントG 主務研究員
松尾 知純	防災ゲート・パートナーズ 代表
南島 正重	東京都立両国高等学校附属中学校 主任教諭
村山 猛	千葉県教育庁企画管理部 教育総務課 人事給与室 障害者雇用推進班 主幹
岡本 弘基	国土交通省水管理・国土保全局防災課 防災企画官
佐藤 茂宗	消防庁国民保護・防災部防災課 地域防災室長
村上 威夫	内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当)
森本 晋也	文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育推進室 安全教育調査官
吉田 和久	文部科学省研究開発局地震・防災研究課 防災科学技術推進室長

(2022年10月1日現在、所属役職別 50音順、敬称略)



防災教育チャレンジプラン募集の御案内

1. 募集の概要

防災教育チャレンジプランでは、全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートいたします。

そのプランの準備・実践に当たって発生する経費を支援し、実現に向けた防災教育チャレンジプランアドバイザーによる対面またはオンラインでのアドバイスや相談などの支援を行います。

応募の中から選ばれたプランは、活動計画について前年度の活動報告会で発表、さらに実践した内容について、交流フォーラム(中間報告会)と活動報告会で発表していただきます。

活動報告会においては、優秀な実践活動に対して防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を授与いたします。

これからの時代の防災教育として、オンラインやオンデマンドを活用した活動など、様々なチャレンジをサポートし、その成果はホームページなどで幅広く公開します。

2023年度の防災教育チャレンジプランでは、新型コロナ禍を新たな「まなびのきっかけ」とするチャレンジを積極的に募集します。内容としての新型コロナ禍を選ぶだけでなく、新型コロナ禍がきっかけとして生まれた「まなびのスタイル」を活用したオンライン型やオンデマンド型のチャレンジも歓迎です。

みなさんのチャレンジをお待ちしています。

サポート内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ プランの実践にかかる経費の提供／上限 30 万円(査定による) ※経費は、実践活動終了後の「完了払い」となりますので、活動期間中は各実践団体での立て替えとなります。 ※活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。 ■ 交流フォーラム(中間報告会)・活動報告会発表者への交通・宿泊費の支給。(1名分×3回分) ■ プランの実現に向けて、下記サポート主体が対面・オンライン問わず 助言や現地指導等の支援を行います。 ■ 防災活動の手法・事例の収集と活動情報の発信ができる各種 web ツールを提供します。
サポート主体	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防災教育チャレンジプランアドバイザー ・防災教育チャレンジプラン実行委員 ・防災科学技術研究所研究員 ・サポーター(過去の実践団体) ・その他防災教育専門家等 ■ 防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
表彰	<ul style="list-style-type: none"> ■ 活動プロセス及び成果に対して審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を決定し、表彰状と盾を授与いたします。 ■ 防災教育チャレンジプラン「サポーター」として認定いたします。

2. 応募資格

- 防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設(保育施設・幼稚園・学校等)、教育委員会、NPO、民間企業、個人、地域団体(民間事業所、各種団体、行政機関)
- 採用された場合は、開催予定の実践団体決定会、中間報告会、活動報告会の計3回の会合に出席できること。
- オンライン開催となった場合、参加可能なインターネット環境(通信回線、機材、アプリケーション等)を用意できること。

3. 応募部門(プランの対象別)

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| A. 保育園・幼稚園等の部 | B. 小学校低学年の部 | C. 小学校高学年の部 |
| D. 中学校の部 | E. 高等学校の部 | F. 大学・一般の部 |

4. 応募締切

2022年11月18日(金)15:00までに応募企画書をホームページにアップロード

5. 応募方法

応募を希望される方は、ホームページ(<http://www.bosai-study.net>)より事前登録をお願いします。事前登録後に、事務局より応募用紙の電子ファイル及び提出先を案内いたします



防災教育 チャレンジプラン

- 防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
E-mail : cpinfo2865@bosai-study.net
- 防災教育チャレンジプランホームページ
<http://www.bosai-study.net/>

※E-mail アドレスは、予告なく変更することがあります。
最新情報は、ホームページでご確認ください。